



“Juntendo+Izu = J's”

皆さんと、順天堂大学医学部附属静岡病院をつなぐ、
アットホーム情報誌「J's (ジェイズ)」。

ジェイズ

vol.21
2024 冬号

ご自由にお取り
ください

特集

骨粗鬆症リエゾンチーム の取り組み

ドクターヘリで結ばれた命
～受傷から退院までを振り返って～

働く人

がん薬物療法認定薬剤師 南雲 昭人

市民公開講座のお知らせ

連携登録医の紹介

医療法人社団 桜仁会 江間クリニック /
三島ゆうレディースクリニック

私のオススメ

「薪ストーブ」

「キャンプ」



ほっとくと怖い骨粗鬆症

治療をサポート！ 骨粗鬆症リエゾンチーム

「リエゾン」とはフランス語で「つなぐ」・「連携」・「橋渡し」を意味します。リエゾンチームは多職種で連携して治療や予防に取り組みます。

Point 骨粗鬆症による骨折の種類

ぜいじゃくせいこっせつ 脆弱性骨折

骨がもろくなっているために、転んで手をついた、重いものを持ち上げた、尻もちをついた、など健康な方では折れないような軽微な外力で骨折してしまいます。

骨粗鬆症の人に多く見られ、寝たきりや要介護状態につながる危険な病気です。

いつのまにか骨折

特に背中が痛くなった経験がないにもかかわらず、レントゲン検査で背骨が折れている(押しつぶされるように変形している)という状態です。脊椎の圧迫骨折と呼ばれ、脆弱性骨折の一種です。

Point 大腿骨近位部骨折のリスクデータ

大腿骨近位部骨折患者数の増加



大腿骨近位部骨折患者の男女比



大腿骨近位部骨折をした患者さんの



大腿骨近位部骨折は二回目以降の骨折(二次骨折)のリスクが高い

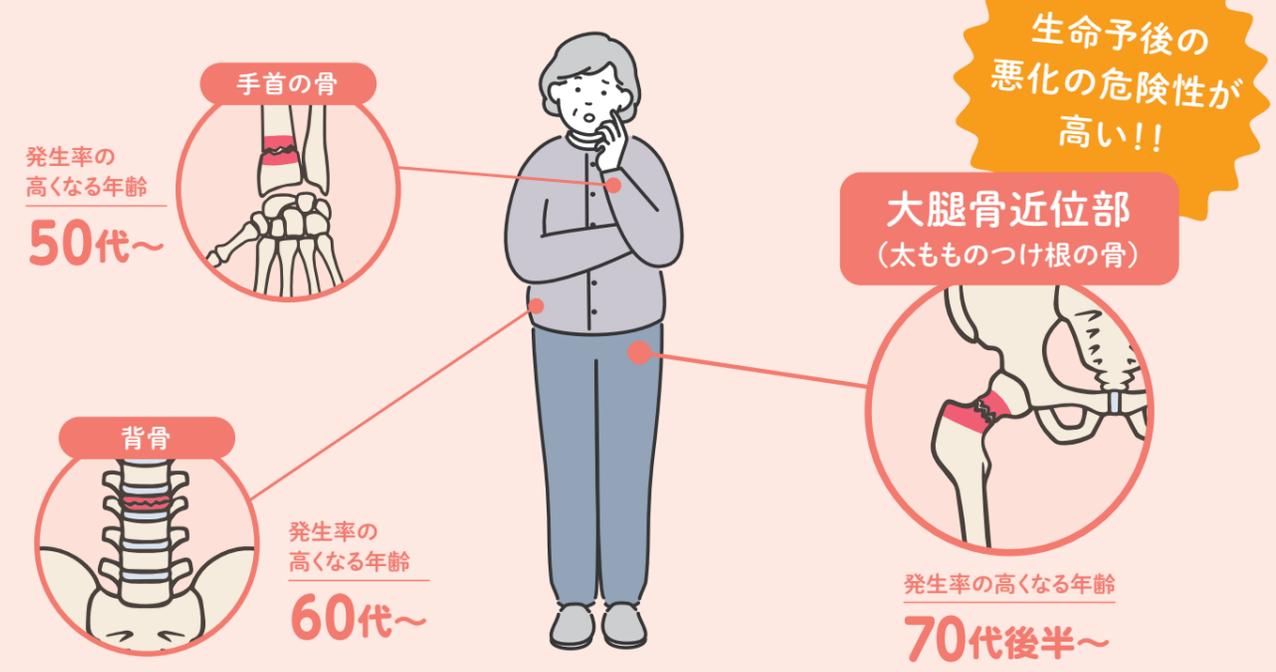
骨粗鬆症による脆弱性骨折は繰り返し起こる恐れがある

寝たきりや要介護になってしまうことに

骨折を連鎖させないために…二次骨折予防、骨折のドミノ化現象を抑える試みに取り組む



Point 骨粗鬆症による骨折が起こりやすい三大部位



整形外科 大林 治 教授

認定医・専門医

- 静岡県整形外科医会 会長
- 日本整形外科学会 専門医
- 日本リウマチ学会 専門医
- 日本手外科学会 専門医
- 日本リハビリテーション医学会 専門医

専門分野

- 骨粗鬆症
- 関節リウマチ
- 膝・スポーツ
- 手外科

骨粗鬆症リエゾンチームの取り組みと目的

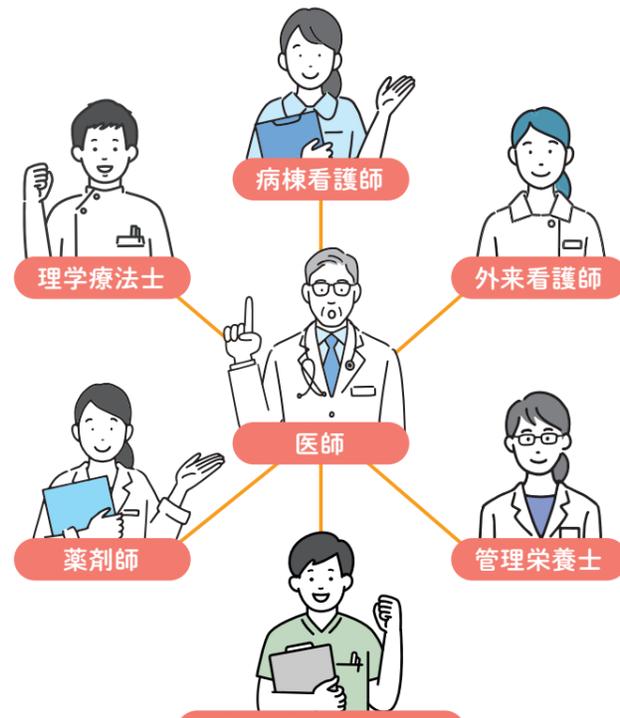
2022年度厚生労働省により、大腿骨近位部骨折の患者さんに対する二次骨折予防の取り組みを評価する指標が定められ、継続的に骨粗鬆症の評価や治療等を行うことが推進されています。

1 骨粗鬆症リエゾンチーム

大腿骨近位部の骨折をした患者さんに対しては骨粗鬆症の診断がつきます。そのような患者さんに対して、専門的な知識や技術を持った医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、社会福祉士などの多職種が協力し治療を継続するためのサポートや二次骨折の予防を図っています。

月1回のチームカンファレンスでは、患者さんの事例を振り返り、栄養的、術後のリハビリ的、集中的なケアなど、しっかりとした治療的介入ができているかの確認を行います。

骨粗鬆症リエゾンチーム多職種連携



骨粗鬆症の専門知識を有するメディカルスタッフであり、骨粗鬆症の診療支援コーディネーターの役割を担っています。

骨粗鬆症の予防や診断と治療を提供し、また社会啓発活動を行うことで、超高齢社会における健康格差の縮小と健康寿命の延伸に貢献することが期待されています。



2 リエゾンチームの目的

最初の骨折への対応 および骨折リスク評価

骨粗鬆症の患者さんは、軽い力で骨折してしまうことがあります。骨折した部位や原因、骨密度などを評価し、骨粗鬆症の診断や治療の必要性を判断します。

新たな骨折の防止

骨粗鬆症の患者さんは、一度骨折すると、次の骨折(二次骨折)を起こすリスクが高くなります。二次骨折を防ぐためには、骨粗鬆症の治療薬の内服や注射、栄養療法、運動療法などを行います。また、骨粗鬆症のスクリーニングや骨密度測定、生活習慣の改善なども重要です。

健康寿命の延伸

骨粗鬆症リエゾンチームは、骨粗鬆症の患者さんの骨折の予防と治療の質を向上させることで、患者さんの生活の質(QOL)の向上や医療費の削減に貢献することを目指しています。

3 大腿骨近位部骨折発生後の患者さんの理想的な流れ



退院後も長期間にわたって骨粗鬆症治療を継続できるよう、地域での医療・福祉関係者との連携の強化に努めます。



ドクターヘリで結ばれた命

～受傷から退院までを振り返って～



会の目的

事故によりドクターヘリで病院へ運ばれた患者さんの、受傷から退院までに関わった方々に集まっていただき、当時の状況を共有する会が、先日開催されました。この会は、患者さんを始め救助から治療を経て退院までに関わった人々がそれぞれの状況を振り返る中で、患者さんの命がどのようにつながっていったのかを知ることで、救命の連鎖の重要性やドクターヘリにおける救命活動の周知、また、同じような経験をした患者さんやご家族が、未来に向かって希望を持つことを目的としたものです。会には、患者さんのほか、ライフセーバー、救急隊員、フライトドクター、病棟担当医、ICU看護師、理学療法士など、15名の方が参加しました。それぞれの方が、事故現場やドクターヘリ、病院での状況や思いを語りました。



経緯とその後

患者さんのHさんは、2023年8月に南伊豆でシュノーケリング中に水流に巻き込まれ、意識を失いました。ライフセーバーが人工呼吸と心臓マッサージを行い、船で浜へ向かいました。浜で救急車に乗り換え、救急隊員がHさんの救命処置を続けました。ドクターヘリではフライトスタッフが人



工呼吸器や点滴などの処置を行いました。病院搬送後は集中治療室に入り検査や診療を受けました。Hさんは、病院での治療やリハビリに励み、事故から4日後には人工呼吸を離脱し、1週間後には退院することができました。

フライトドクターの大森医師より

救命に携わった方々がそれぞれの役割を果たし、患者さんの命を繋いでくれたことに感謝しました。また、病院での治療に携わる者の意識やモチベーション、チームワークの向上に繋がることを期待し、会の継続に意欲を示しました。

患者さんコメント

ドクターヘリでの救助は、自分の人生に新しい意味や価値を与えたと話しました。Hさんは事故から意識を取り戻すまでの間に、多くの方が自分の命を救ってくれたことを知ることができ、感謝の気持ちであふれていました。そして、一人ひとりに感謝の気持ちを伝えました。会では、ドクターヘリの見学も行き、参加者全員で記念写真を撮りました。Hさんが笑顔でポーズをとる姿からは、生きる喜びや希望が感じられました。



J's worker

… 働く人 …



薬剤科
がん薬物療法認定薬剤師
南雲 昭人

薬剤科は、薬剤師41名、調剤補助員12名で業務を行っています。業務の内容は、入院・外来患者の薬の調剤業務、入院服薬指導業務、化学療法調製・服薬指導業務、DI(医薬品情報における管理・収集・提供など)業務、治験業務などを行っています。薬剤科が果たす役割は薬のスペシャリストであることと私は考えますので、薬の使い方分からないことがあれば気軽に聞いていただきたいです。

がん薬物療法認定薬剤師を目指していたこともあり、一般外科、血液内科、婦人科といった化学療法に関連する診療科を主に担当させていただいています。通常行う業務としては、入院患者さんの薬剤管理業務(併用禁忌・重複投与・副作用確認、持参薬剤の代替薬提案など)や、

薬剤アレルギー歴を聴取し使用予定の薬剤に含まれていれば代替薬を提案し、腎機能・肝機能を考慮した薬剤投与量の調整、手術前の休薬確認などです。がん薬物療法に関連した業務としては、副作用の確認と支持療法の提案を行い、患者さん自身が副作用について理解し、適切に対応できるように指導しています。

化学療法調製室では、抗がん剤の調製・監査を行います。また、化学療法が開始される患者さんに対し化学療法のスケジュール、副作用などを中心に説明し、自宅で副作用が起きた時の対応などを理解していただくよう努めています。

心がけていることは、「患者さんは医療者ではない」ということです。難しい言葉をなるべく避けて平易な言葉で患者さんが理解できるように説明することです。

抗がん剤治療を行っている患者さんは様々な副作用に悩まされながら治療を行っています。その副作用に対して、薬剤師として話を聞き処方提案などをする事で「症状が楽になりました。」と患者さんにお礼を言われることは仕事をできて嬉しいです。副作用で苦しむ患者さんを減らすことに貢献できればと考えています。

J's event

市民公開講座

- 市内外のどなたでも
- 参加無料
- 申込不要



日時 | 2024年2月21日(水)17:00~18:00(開場16:30)

演題 | 共に命を救う:ドクターヘリと地域の連携による救急医療最前線

講師 | 救急診療科 准教授 大森 一彦

● 会場定員/80名

● 会場/順天堂大学医学部附属静岡病院 第1会議室およびZOOMでのオンライン参加

オンライン参加 (ZOOMより視聴可能)

ご希望の方はWebサイトの「市民公開講座」ページよりご視聴ください。

専用ページ <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/pr/public/>



患者さんに良質な医療を提供できるよう、当院と連携体制を取っている地域の医療機関をご紹介します。

医療法人社団 桜仁会
江間クリニック

伊豆の国市



1984年開業以来、健診および生活習慣病の検査や治療、怪我などの救急対応を地域のかかりつけ医として続けてまいりました。レントゲン検査、全身CT検査、超音波検査、上部・下部消化管内視鏡検査等必要に応じて随時行っております。2024年度で開院40周年を迎えます。引き続きご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

所在地：伊豆の国市南江間1306-1

院長：櫻田 修

副院長：櫻田 睦

診療科：内科、外科、脳神経外科

アクセス：伊豆箱根鉄道「葦山」駅より伊豆箱根バスに乗車「千代田口」にて下車。江間インターそば

電話：055-947-1238

Webサイト



診療(受付)時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00 ~ 12:00	○	○	○	—	○	○	—
15:00 ~ 17:30	○	○	○	—	○	—	—

三島市

三島ゆうレディースクリニック



婦人科診療一般を中心として、女性のアンチエイジングにも力を入れており、思春期から高齢の方まで幅広い年齢層を対象に、美と健康の維持および向上をサポートしております。初診の方もインターネットより、予約可能です。完全予約制ではございません。詳細は当院のホームページをご覧ください。

所在地：三島市西若町7-45

院長：五十嵐 優子

診療科：婦人科

アクセス：伊豆箱根鉄道「三島広小路」駅より徒歩10分

電話：055-972-1057

Webサイト



診療(受付)時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00 ~ 11:30 (土 ~ 12:00)	○	○	—	○	○	○	—
14:30 ~ 17:30	○	○	—	○	○	—	—



趣味

薪ストーブ



冬のフィンランドを旅行した時に、雪降る景色に薪ストーブという組み合わせを体感し、薪ストーブのある生活に惹かれました。雪があまり降らない地域ですが、家を建てる際、家の中心に薪ストーブを設置しました。薪を用意するのは大変ですが、冬は暖かいだけでなく、料理もできるので、薪ストーブライフを楽しむことができます。冬の夜、ゆらめく炎を眺め、パチパチとはげ音を聞きながら、眠りにつく、一日の終わりに幸せを感じる時間です。

地域医療連携室 主任 小川 真幸

趣味

キャンプ



私の趣味はキャンプです。数年前、友人の勧めでキャンプを始めたところ、どんどのめり込んでしまい、今では毎週末予定がなければ、1人でもキャンプに出かけるようになりました。私が思うキャンプの魅力は、自然を身近に感じられる事と焚き火です。星空を眺めながら好きな料理を食べて焚き火を眺めていると、日々の悩みやストレスも吹き飛んでいきます。

地域医療連携室 吉田 隆一



順天堂大学医学部附属静岡病院

〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129番地 TEL:055-948-3111

<https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

最新情報はこちら

web サイト



外来診察日割表

